

### 川嶋昭二：外国産コンブ目植物の漂着記録（3）エナガオニコンブについて

Shoji KAWASHIMA: Drifting records of alien species of the Laminariales (3).  
*Laminaria diabolica* MIYABE f. *longipes* MIYABE et TOKIDA

#### (3) *Laminaria diabolica* MIYABE f. *longipes* MIYABE et TOKIDA エナガオニコンブ

オニコンブは北海道東部の厚岸附近から根室半島周辺を経て知床半島東岸一帯に生育し、また南千島のクナシリ、エトロフ両島や、サハリン南端の亜庭湾や西能登呂岬周辺および沿海州にも分布する（宮部1936）。

宮部（1902）が初めて霧多布産のオニコンブに基づいて記載したと思われる性質は、茎が短く、葉は基部が円く、非常に幅広く、かつ中帯部の厚さにくらべて縁辺部が薄く、著しく波縮する特徴をもっている。一方、永井（1936）は潮流の静穏な所では茎が短く、葉は基部が円く、かつ幅広くなるが、潮流の烈しい所では茎が長く、葉は基部くさび形で幅もせまくなるという一連の傾向があることを示している。著者の経験でも本種の形態的特徴は生育地によって大きく変化し、中でも茎の長さや葉の基部の形の違いが注目される。

ところで、サハリン南端の西能登呂岬やクナシリ島の根室海峡に面する地方には茎長が30~70 cmに達するものがあり、このような葉体は葉長7~13 m、葉幅20~40 cmと非常に大きくなるが、その基部はせまいくさび状で、中帯部の厚さは2~3.5 mmしかなく乾燥すると破れやすい（NAGAI 1940, TOKIDA 1954）。宮部（1936）はこのような特徴をもつオニコンブを *f. longipes* MIYABE et TOKIDA エナガオニコンブとし、北海道沿岸に多い基本型と区別した。この品種にあたるコンブは北海道では利尻島のコンブ養殖用ロープに着生したものが発見されただけで（山本・鳥居1983）、天然の岩礁などに生育しているという記録はない。

さて、第1図に示したコンブは1971年10月（発見日不明）に知床半島東岸の羅臼町沖合約5.5 哩の海上を漂流しているのを漁船により発見されたものである。葉体は少し破れているが、全長6 m、大きな円錐状の附着器を持ち、茎は長さ28 cm、基部は円柱状で径2 cmほどあるが、上部は扁平している。葉は長さ5.7 m、最大幅38 cm、披針状を呈し、基部くさび状、中帯部は幅の約5分の3を占め、その下部で厚さ3 mm

ほど、縁辺部は大きく波縮して1~1.5 mmとかなり薄い。茎と葉に円形の粘液腔道がある。子嚢斑は形成されていない。

ここには漂流物の性質を簡単に述べたが、多くの点で宮部（1936）のエナガオニコンブの記載に良く適合し、また永井（永井1936, NAGAI 1940）がクナシリ島南部のハッチヤス岬附近、ポンコタンから報じたものに酷似する。漂流物の発見地点がこの岬のごく近くであることからみて、対岸の生育地から流れてきたと考えてまちがいないだろう。

次に、第2図に掲げたコンブは1984年8月27日、北海道オホーツク海沿岸北部の枝幸（えさし）町沖合約8 哩、水深110 m地点で、ケガニかご漁のロープに

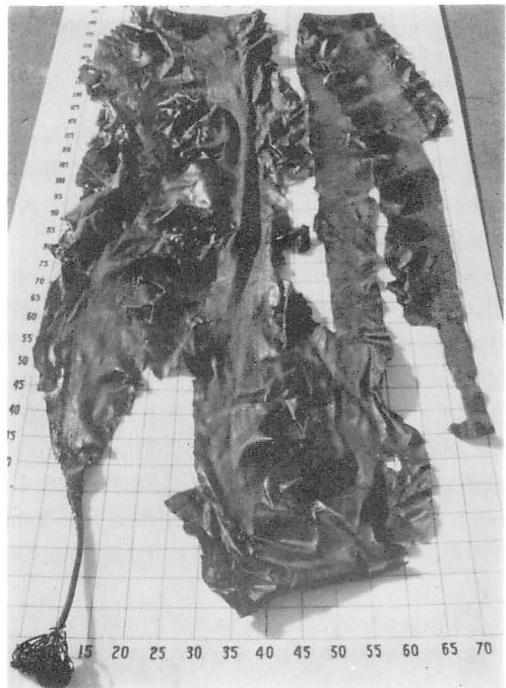


Fig. 1. *Laminaria diabolica* f. *longipes*, drifted on the sea of 5.5 nautical miles off Rausu (羅臼), Shiretoko Peninsula, Hokkaido. October, 1971. (6 m in length)



Fig. 2. *Laminaria diabolica* f. *longipes* prox. The driftage was entangled on rope of crab fishing cages set on the sea bottom at a depth of 110 m at about 8 nautical miles off Esashi (枝幸), the Okhotsk Sea coast of Hokkaido. August 27, 1984. (6.3 m in length)

からまり引き上げられた。発見時の葉体は新鮮だったが附着器の大部分は失われ、また葉の上半分の縁辺部が破れたり葉面に少すり傷が認められた以外は大きな損傷はなかった。

葉体は全長 6.3 m、そのうち茎が 90 cm を占める。根は 7~8 回分岐し、3~5 mm 太い。茎は基部ほぼ円柱状、径 2.3 cm あり、上部に次第に扁平になり、質は堅くて特に下部はほとんど木質化している。葉は長さ 5.4 m、基部やや円味あるくさび状で上部にゆるやかに幅広くなり、最大幅 21 cm あり帯状を呈する。中帯部は葉幅の 2 分の 1 ほどで非常に不明瞭、厚さ 2.5~3 mm、縁辺部は大きくうねり、厚さは 1.5~2 mm で中帯部とあまり変らない。粘液腔道は茎、葉とも存する。

この漂着コンブには前述のエナガオニコンブとかなり違う特徴が認められる。すなわち、茎が非常に長く全長の 7 分の 1 を占め、ほとんど木質化して堅い。特に葉の基部がやや幅広いくさび状で全体に帯状

を呈し、中帯部や縁辺の様子もオニコンブ本来の特徴と違う点が見られる。

このコンブの漂着地、枝幸町はサハリン南西端の西能登呂岬からわずか 110 km ほどの近距離にあり、また葉体の新鮮さから考えても同岬周辺か亜庭湾東部沿岸から比較的短時間で流れ着いた可能性が強い。しかし、著者の知る限りではこれらの地方を含めてサハリン全島やその周辺の北方海域からこのようなコンブはまだ報告されていない。また、サハリン南部や千島列島産標本を多数所蔵する北海道大学農学部標本室にもこの漂流物に相当する標本は見あたらない。

ここに紹介した二つの漂着コンブのうち、前者は典型的なエナガオニコンブと判断できるが、後者は上に述べたように多少の疑問が残っている。しかし、他の種類にする根拠が明確になるまでは茎の特徴から仮にエナガオニコンブとし、その 3 年目またはそれ以上の古い葉体として取り扱い、将来さらに正確を期したい。また、前報 (川嶋 1986) に述べた茎にオニワカメ幼体が着生していた "*Laminaria* sp." とはこのコンブであることを附記する。

漂着コンブを提供下さった坂本富蔵氏と四ツ屋義則氏に、また標本調査に多大の便宜をいただいた北海道大学農学部四方英四郎教授に心からお礼申し上げます。

#### 引用文献

- 川嶋昭二 1986. 外国産コンブ目植物の漂着記録(2) オニワカメについて。藻類 34: 332-333.
- 宮部金吾 1902. 昆布科。1~60頁。北海道水産調査報告、卷之三、昆布採取業、北海道庁殖民部水産課。
- 宮部金吾 1936. 北海道産こんぶ科植物。283-300頁。岡村金太郎、日本海藻誌、内田老鶴圃、東京。
- 永井政次 1936. オニコンブの一変型種と其成因に就て。科学 6: 464-468.
- NAGAI, M. 1940. Marine Algae of the Kurile Islands I. Jour. Fac. Agr., Hokkaido Imp. Univ. 46(1): 1-137.
- TOKIDA, J. 1954. The Marine Algae of Southern Saghlien. Mem. Fac. Fish., Hokkaido Univ. 2(2): 1-264.
- 山本弘敏・鳥居茂樹 1983. エナガオニコンブ、オニワカメ、フウチョウワカメの新産地。藻類 31: 102-103.
- (042 函館市湯川町 1 丁目 北海道立函館水産試験場)